

2026 年 3 月期 上期決算説明会 質疑応答要旨
(2025 年 11 月 4 日開催)

オルガノ株式会社

本資料については、当社判断で簡潔にまとめたものとなりますこと、予めご了承下さい。

- Q 中国市場について、期初想定に対して変化があれば教えてほしい。
- A 半導体市場は AI 向けなど最先端分野については非常に高い需要が続くものの、それ以外の半導体は市況が落ち込んでいる。中国では重要な産業として半導体分野への投資が続いているが、関税など米国との通商問題によって、顧客の原材料・設備の調達などにも影響が出ていることを背景に、顧客が投資を見合わせている動きがみられている。
- Q 過去数年、プラント案件の利益改善がオルガノの収益性改善を牽引してきたが、その状況に変化はあるか。
- A 水処理設備関連の市場としては、需要に対して供給が追いついていない状況が続いている「売り手市場」にあるとも言え、原材料や人件費の上昇を売価に織り込むことができていく。そうした状況に変化は見られていないものの、ここ数年活発な動きがみられた半導体投資は各国の補助金などを背景としている面があり、いずれ投資の水準が落ち着いていくことも予想される。今後については、ここ数年のような利益率の改善が続くことは難しいと考えているが、収益の水準が大きく落ち込むことは想定していない。
- Q 今後、成長の鈍化によって純利益と株主資本のバランスからいずれ ROE が頭打ちとなる可能性があると考えられるが、それに対する施策をどう考えているか。
- A 自己資本が着実に積み上がっていく中で、利益が成長していかないと ROE は低下していく。まずは現在の利益率をキープしていきながら、要員体制強化や IT 投資、インオーガニックな成長に向けた M&A など成長投資をきちんと進めていくことが重要と考えている。株主還元については、当面配当中心に考えており、配当性向の改善と増配を継続していきたい。自社株買いについては足元で計画はないが、今後株価の動向など踏まえて検討する可能性はある。
- Q 主要顧客の投資拡大が続く中、特定顧客への集中度が高まっているように思えるが、それに続く第 2 の柱として期待しているような事業領域があれば教えてほしい。
- A 今年度受注高の 3 割程度は主要顧客向けとなる見通しであり、台湾や米国への積極的な投資拡大によって、今後も比率が高まっていくことを想定している。これに続く事業領域としては、米国での機能商品を含めた事業展開や、将来的な成長が期待されるインド市場へのアプローチなど、地理的なポートフォリオの強化を図るとともに、国内外で

ソリューション事業を拡大するなど事業のポートフォリオについても強化を進めていきたい。今後数年は主要顧客の大型投資案件に対応しながら、地域・事業ポートフォリオの強化を図っていきたいと考えている。

Q 第 2 四半期の水処理エンジニアリング事業の利益率が大きく改善した背景と今後の見通しについて教えてほしい。

A 第 2 四半期の利益率改善については、台湾などプラント案件の採算性改善が大きな要因である。現在の需給や競合の環境が続いていけば、足元の利益水準は今後も維持できるものと考えている。

Q 上期の収益性改善には、日本・台湾の売上増加と中国の売上減少など地域別売上のミックス改善も影響しているか。

A 上期の収益性改善は、台湾の売上が伸長したことに加え、台湾を含めたプラント案件の採算性改善が主な要因である。実際に日本・台湾・中国の地域別で利益率に多少の差があるため、売上高の地域別構成比の変動が利益率改善にも影響している。

Q 通期の水処理エンジニアリング事業のプラント売上を下方修正した背景、ソリューションの売上を上方修正した背景は何か。

A プラントの売上高については、期初段階で受注を見込んでいた中国などの案件受注の遅れが影響して下方修正を行っている。ソリューションは第 2 四半期まで順調に推移しており、通期では上方修正となる見通しであるため、水処理エンジニアリング事業全体では期初計画の達成を見込んでいる。

Q ソリューション事業の売上は下期に拡大する見通しだが、利益に対する影響がないように見えるが。

A ソリューション事業の売上は上期より下期が大きくなる見込みだが、通期の利益については今後の進捗をやや保守的に見ている面もあり、多少の上振れは期待している。

Q 国内の受注計画を引き上げている背景は何か。

A 国内の受注動向については、受注を予定している大型案件の件数や規模に増減があることに加え、国内のソリューションが好調に推移していることから通期見通しを引き上げている。

Q 下期の受注見通しについて、国内で大型案件の受注を見込んでいるとのことだが、第 3・第 4 四半期間で受注・利益についても偏りがでると想定しているか。

A 受注高については顧客からの発注のタイミングによって、受注時期が想定から前後する可能性がある。四半期ごとの想定はしておらず、下半期で国内大型案件の受注を想定

している。第3・第4四半期個別の計画は立てていないが、例年、年度の後半に向かって利益率が改善する傾向にある。見通しについては市況の変動も影響するため難しいところもある。

Q 電子産業分野における収益性は今後も維持が可能か。地域別の収益性動向も含めて教えてほしい。

A 現在の需給・競合の環境が今後も続いていけば、足元の利益水準は今後も維持できると考えている。国内・台湾はソリューションが成長しており、安定的な収益を期待している。中国はプラントへの依存度が高く、半導体顧客の投資動向が業績に大きく影響する。米国では今後も活発な投資を想定、人件費も高く労働生産性も低くなる可能性がある中で、利益の確保が一つの大きな課題である。最先端半導体向けの高いシェアを維持しつつ、電子産業向けの収益性を現在のレベルで維持していきたいと考えている。

Q 電力分野向けの拡大も期待されるが、業績へのインパクト・見通しはどうか。

A 電力分野は既設の原子力発電所の再稼働や火力発電所のリプレースに伴うソリューションなどを期待している。しかしながら、急拡大は難しいと想定しており、連結業績に与える影響はそこまで大きくないと見込んでいる。

Q 欧州・米国での受注拡大は案件の規模が増大か、または新規顧客の案件獲得か。

A 欧州は主要顧客のドイツでの投資案件を受注しているが、米国案件に比べれば規模は小さい。米国では主要顧客のプラントやメンテナンス・改造工事などの案件を中心に受注が拡大している。積極的な顧客の設備投資を踏まえ、事業の拡大を期待している。

本資料における業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

以 上